



ラオス・クリーン農業開発プロジェクト

クリーン農業ニュースレター

第24号 2022年5月発行

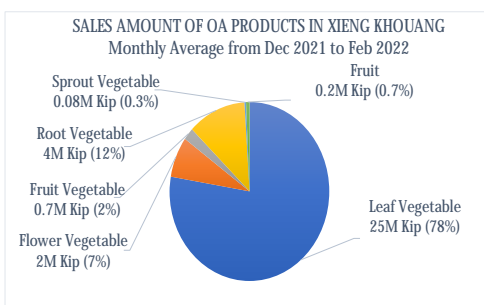
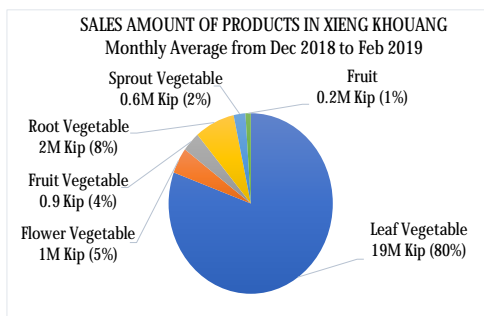


このプロジェクトは5年間（2017-2022）のJICAによる技術協力プロジェクトで、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、サイヤプリ県及びシェンクワン県の4つのパイロット県を対象としています。プロジェクトは、パイロット県における市場ニーズに基づくクリーン農業（有機農業及びGAP）の推進を目的として活動しています。

最近のトピックス

1. シェンクワン県におけるOAマーケットに関するエンドライン調査結果

プロジェクトではエンドライン調査の一環として、有機農業（OA）マーケットにおける生産物（野菜・果物を対象）の販売量及び販売額の調査を実施しました。今回は首都ビエンチャンと同時に実施したシェンクワン県でのSibounheang OAマーケットの調査結果について報告します。尚、本調査は新型コロナウイルス感染拡大により、当初の予定を大幅に短縮し、2021年12月から2022年2月までの3ヶ月間で実施しました。下記のグラフに、今回の調査とプロジェクト開始時に実施したベースライン調査の同時期を比較した一月当たり野菜・果物の販売額を示しています。



今回の調査結果から当該期間の一月当たりの販売額は、23,888,000 キープ¹⁾（24万円）から31,727,000 キープ（32万円）へと33%の増加がみら

れました。因みに、販売量は3,013kgから3,314kgへと10%の増加がみられました。また、シェンクワン県の特徴としては、販売額に占める葉菜の割合が80%前後（首都ビエンチャンのITECC OAマーケットでは45%前後）と非常に高いこと、根菜の販売額の倍増もみられました。更に、販売額に占める割合の高い上位10品目は、ミックス葉菜10.9%、ニンニク10.4%、ハクサイ9.7%、レタス・サラダ菜8.6%、カリフラワー・ブロッコリー7.4%、キャベツ6.9%、サイシン6.1%、ニンジン4.7%、ワケギ3.2%、コリアンダー3.1%の順でした。これら上位10品目の内、ベースライン調査時と比較し、販売額を大きく伸ばした品目はニンニク（3.1倍）、カリフラワー・ブロッコリー（2.1倍）、ハクサイ（1.7倍）、ミックス葉菜（1.6倍）でした。これらの品目が販売額全体の増加に大きく影響したことが考えられます。この他として、農家のOAマーケットでの一回当たり販売量は21kg、販売額は200,000 キープ（2,000円）でした。特にOAマーケット一回当たりの販売額は、同時期の首都ビエンチャンのITECC OAマーケットの5分の1程でした。

1) 1キープ=0.010円（2022年3月末時点）

2. 「有機農業基準（Organic Agriculture (OA) Standards）、及び内部監査（Internal Control System (ICS)）についてOn the Job Training (OJT)を実施

昨年8月25日（水）に「農家グループの組織構造とマネジメントの改善」に係る活動実施に先駆け、カウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター（CASC）、首都ビエンチャン農林局（PAFO）、そして首都ビエンチャンの6つの郡農林事務所（DAFO）と共に合同キックオフミーティング

を開催しました（ニュースレター第18号2021年9月号で紹介）。同会議では各農家で記載する生産計画や投入済みの有機資材に関する情報の記載不備、各OAグループ内で実施される内部監査（ICS）時の監査ポイント及び指摘事項についての不明点などが課題として挙げられました。

その後、新型コロナによる影響もあり、課題解決に向けた活動は停滞していましたが、ようやく5月5日（木）にOJTを実施することが出来ました。



（写真）研修参加者による集合写真



（写真）挨拶を行うCASCセンター長のタビシット氏（左）

今回のOJTは内部監査員（ICS Inspector）並びにICS業務をサポートするDAFO職員に限定しました。

ICS Inspectorは、同グループ内の農家に対しOA Standardsに沿った生産に取り組むよう指導する立場であり、農家からの提出書類に基づき安全に農産物が生産出来ているかどうかチェック項目に沿って圃場や栽培の状況を目視で確認し、OAグループ内での結果報告会や報告書の提出などを行う立場にあります。

今回の研修により、より安全・安心な農産物の生産に繋がるようICS Inspector並びにDAFO職員に期待したいと思います。



（写真）研修中の様子

今回実施したOJTの教材はOrganic Agriculture (OA) Technical ManualとしてCASCのYouTubeチャンネルで配信予定となっておりますので是非ご覧ください。

3. 「農業経営（土地面積と単収）」について On the Job Training (OJT) を実施

途上国の生産現場では農家自身が圃場面積を正

しく把握しているということは非常に珍しく、単収を把握する必要性についても理解が乏しい状況にあります。



（写真）研修参加者による集合写真

小規模面積（1,000坪以下）で少量多品目の生産が目立つラオスでも同様の傾向が見られ、圃場面積を農家に尋ねると1ha=10,000 m²（約3,000坪）の広さを十分理解しないまま、3haや1ha、0.5haと間違った回答をする例がみられます。

よって、農業経営を実践する上で基本事項となる“圃場面積と単収”について理解してもらうため、5月12日（木）にカウンターパート機関である農業局クリーン農業基準センター（CASC）を対象にOJTを実施しました。



（写真）歩数を数えるCASC職員



（写真）圃場面積の計測後、畝数や苗数などを算出するCASC職員

今回のOJTでは巻き尺が購入できない農家を想定し、歩数を用いた圃場の測量を最初に実施。次に歩数による測量の誤差と正しい面積の把握ということで巻き尺を用いて測量を行いました。また講義では、圃場全体の面積算出のみならず、畝の本数算出や、畝に基づく苗の本数算出、単収の把握と単価によって得られる収入の算出などを行いました。

今回OJTを受講したCASC職員は、次回講師となってOrganic Agriculture (OA) Groupを対象にOJTを実施する予定です。今回実施した「農業経営（土地面積と単収）」についても、Organic Agriculture (OA) Technical ManualとしてCASCのYouTubeチャンネルにて配信予定となっております。是非ご覧ください。

発行元：JICA クリーン農業開発プロジェクト

Clean Agriculture Development Project (CADP)

Email; cadp.lao.info2@gmail.com

Tel : +856-21 417 681



<https://www.facebook.com/jicaCADP/>

Homepage

<https://www.jica.go.jp/project/laos/026/index.html>

